

## 2015年冬季ボーナスアンケート調査（宮崎県内）

当研究所は、宮崎県内における消費動向あるいは生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者を対象にインターネットアンケートを活用した冬季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

### 【調査結果の概要】

1. ボーナスは「支給される（71.5%）」が前年比4.3ポイント（以下、「P」）低下した。増減見込みは「同じくらい（65.6%）」が最多で、前年並みを見込む回答が目立つ。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（41.6%）」が最多。
3. 使いみちは「貯蓄（70.5%）」が最多で、貯蓄の目的は「家計の補充（66.8%）」、貯蓄の方法は「定期性預貯金（57.6%）」が最も多い。
4. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（47.3%）」に次いで「日用品のまとめ買い（23.2%）」が多く、買物予定先は「ショッピングセンター（52.7%）」が最多だった。県外での買物予定地は、九州4市（※）の中で「福岡市（55.6%）」が最も多く、2位の「大分市（44.4%）」は、東九州自動車道によるアクセスの改善から前年より大幅に伸びた。
5. 生活状況は「変わらない（61.0%）」が最も多く、生活状況DIは「▲13.3」と前年比2.4P改善した。

※ 福岡市、大分市、熊本市、鹿児島市の4市

### 調査の実施要領

調査時期：2015年11月12日（木）～11月18日（水）

調査対象：宮崎県内の給与所得者

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：497名

### 回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	90	18.1	独身	219	44.1	男性	246	49.5	会社員	447	89.9	
30歳代	145	29.2	既婚	子供有り	220	44.3	女性	251	50.5	公務員	50	10.1
40歳代	154	31.0		子供無し	58	11.7	合計	497	100.0	合計	497	100.0
50歳代以上	108	21.7	合計	497	100.0							
合計	497	100.0										

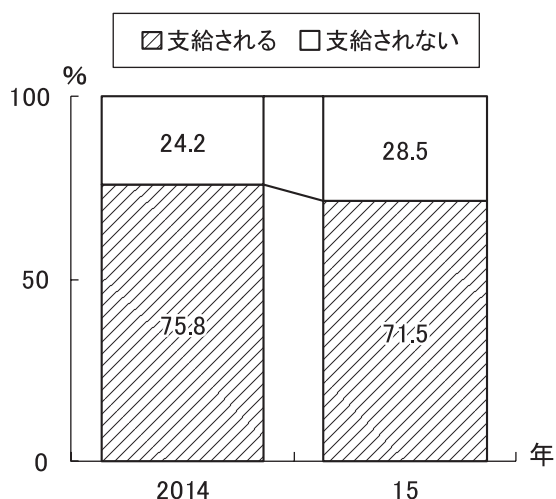
※四捨五入の関係で内訳の総和と合計は必ずしも一致しない。

## 1. ボーナス支給の有無と増減見込み

### (1) 「支給される」が71.5%

今冬のボーナスは「支給される」が71.5%、「支給されない」が28.5%で、「支給される」が前年比4.3P低下した(図1)。

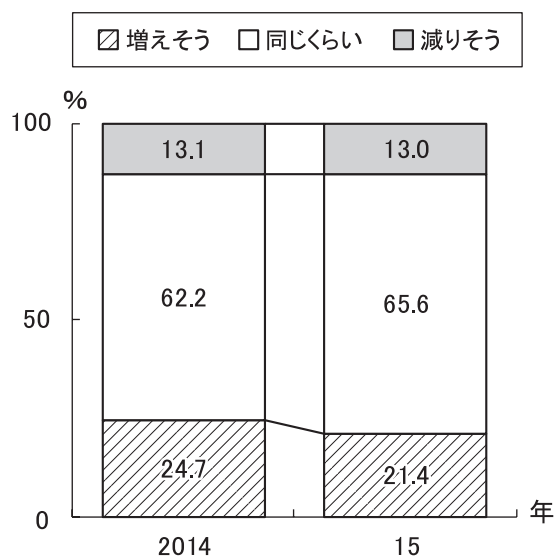
図1. 冬季ボーナス支給の有無



### (2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

ボーナスの増減見込みは、「同じくらい」が最も多く、前年比3.4P上昇した。「増えそう」「減りそう」はそれぞれ前年より低下しており、前年並みのボーナス支給額を見込む回答が目立った(図2)。

図2. 冬季ボーナスの増減見込みの推移



## 2. ボーナスの見込み額

### 「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満(41.6%)」が最も多く、「30万円～50万円未満(24.4%)」「50万円以上70万円未満(11.0%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円～30万円未満」が47.2%で前年比7.4P上昇した。一方、「10万円未満」「30万円～50万円」「50万円～80万円」の割合は、前年よりそれぞれ低下した(表1)。

図3. ボーナスの見込み額

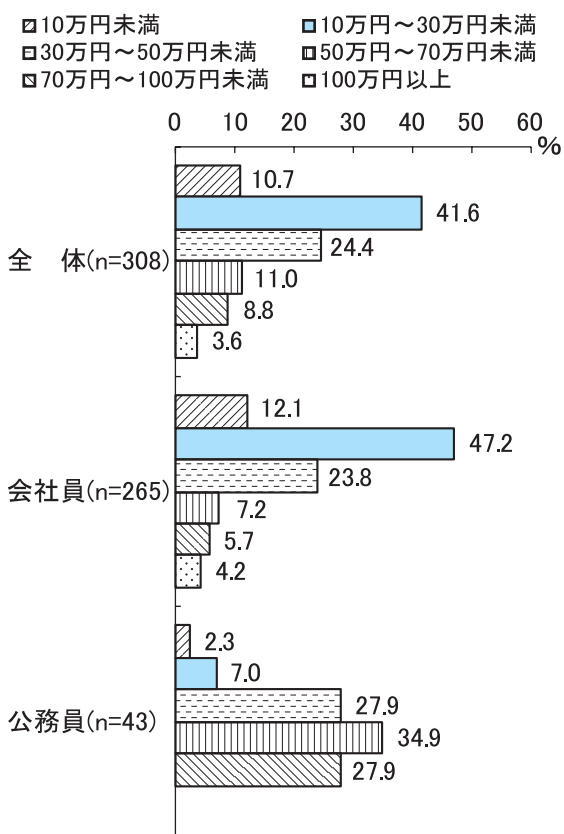


表1. 会社員の見込み額

(単位: %、P)

	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～80万円未満	80万円～100万円未満	100万円以上
2015年	12.1	47.2	23.8	7.2	5.7	4.2
2014年	13.3	39.8	27.3	12.1	4.5	3.0
前年比	▲1.2	7.4	▲3.5	▲4.9	1.2	1.2

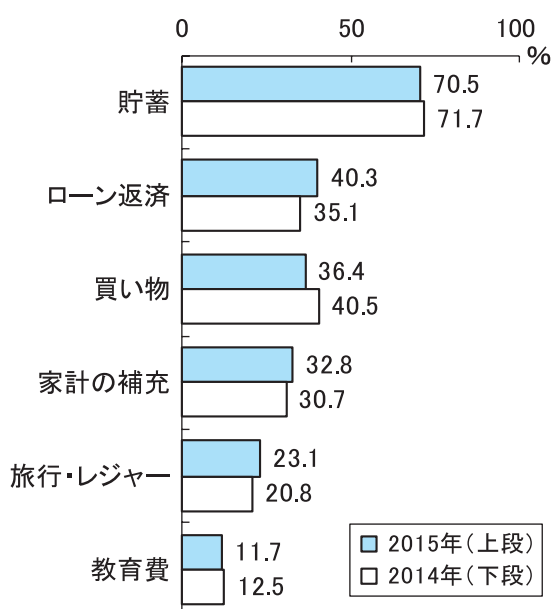
### 3. ボーナスの使いみち(複数回答)

#### 「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(70.5%)」が最も多く、以下「ローン返済(40.3%)」「買い物(36.4%)」「家計の補充(32.8%)」と続いた(図4)。

前年に比べて、貯蓄はほぼ横ばいだったが、ローン返済は5.2P上昇した一方、買物は4.1P低下して、順位が入れ替わった。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



#### (1) 「貯蓄」

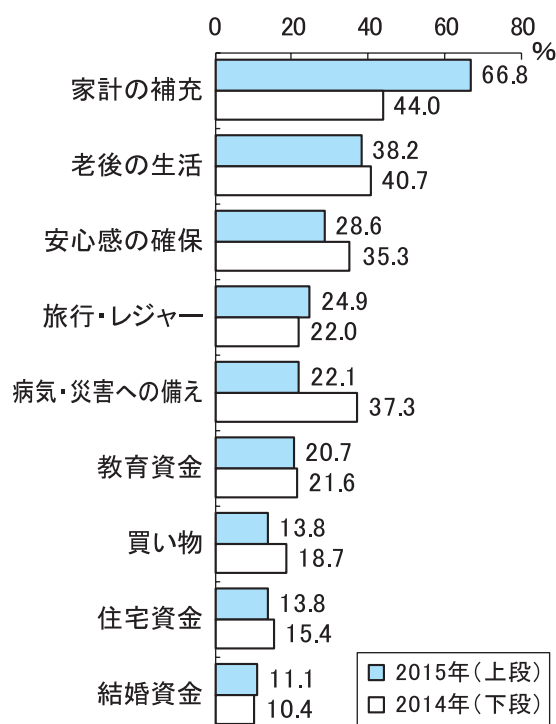
##### ①貯蓄の目的(複数回答)

#### 「家計の補充」が依然として最多

貯蓄の主な目的は「家計の補充(66.8%)」「老後の生活(38.2%)」「安心感の確保(28.6%)」が上位を占めた(図5)。

「家計の補充」は前年より大幅上昇(+22.8P)した一方、「病気・災害への備え」は15.2P低下した。全項目のうち、前年比上昇した数は3項目で、低下した項目の多さが目立つ。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

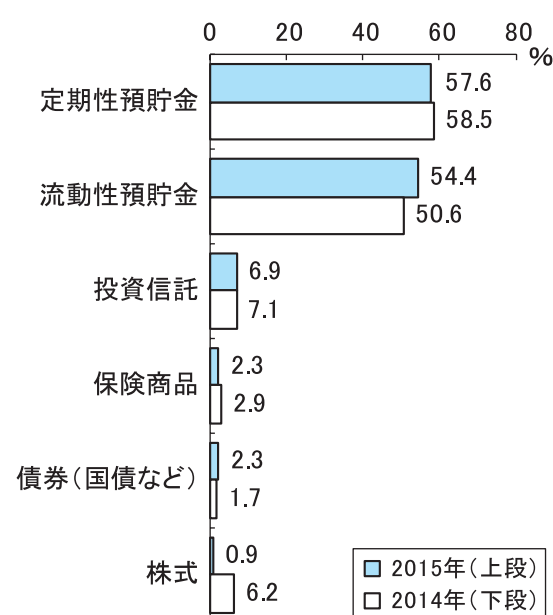


##### ②貯蓄の方法(複数回答)

#### 「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「定期性預貯金(57.6%)」「流動性預貯金(54.4%)」が多かった(図6)。前年比では株式が5.3P低下した一方、流動性預金は3.8P上昇した。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



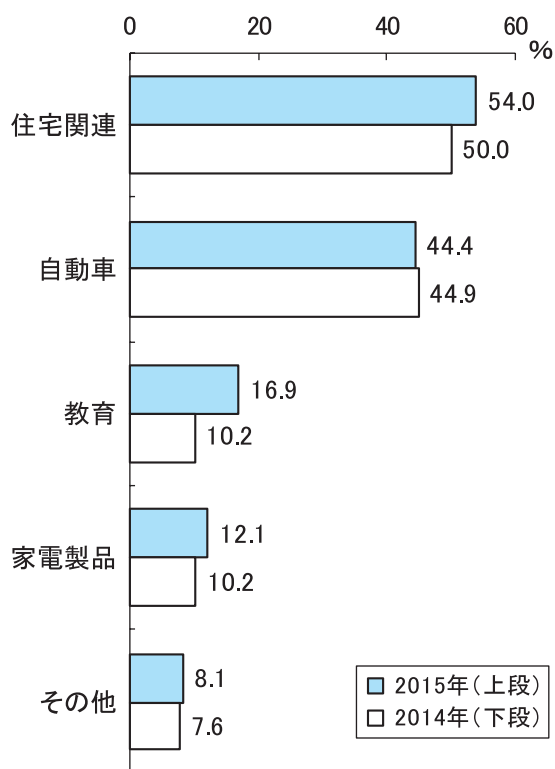
## (2) 「ローン返済」(複数回答)

### 「住宅関連」「自動車」が二大項目

ローン返済では「住宅関連 (54.0%)」と「自動車 (44.4%)」の回答が上位を占めた。(図7)

前年比では「自動車」を除く全ての項目で上昇し、「教育費 (+ 6.7 P)」「住宅関連 (同+ 4.0 P)」の上昇が目立った。

図7. ローン返済予定の内容(複数回答)



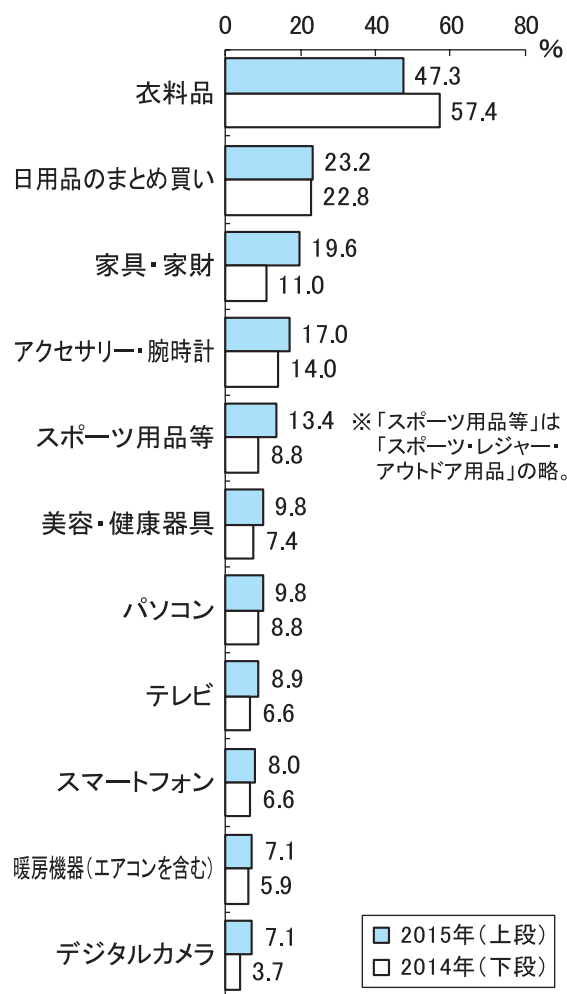
## (3) 「買い物」

### ①購入予定品(複数回答)

#### 「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品 (47.3%)」が最も多く、以下「日用品のまとめ買い (23.2%)」「家具・家財 (19.6%)」と続いた。「衣料品」は前年比 10.1 P 低下した。一方、衣料品を除く全ての項目は前年より上昇し「家具・家財」は「アクセサリ・腕時計」と順位が入れ替わった。(図8)。

図8. 購入予定品(複数回答)



### ②買物予定先の店舗形態(複数回答)

#### ショッピングセンターがトップ

買物予定先の店舗形態では「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(52.7%)」が最多で、以下「通販・ネット販売(48.2%)」「百貨店(37.5%)」となった(次頁表2)。

居住地別にみると、宮崎市で「通販・ネット通販(55.1%)」が前年比+ 24.3 Pと大幅に上昇した。一方、都城市は「量販店(42.9%)」が同 24.7 P 上昇した。

「量販店」は、全ての地域で、前年比上昇し、特に都城市の回答の増加が目立った。

表2. 買物予定先の店舗形態（複数回答）

(単位：%)

買物先 居住地	SC (大型店)	通販・ ネット販売	デパート・ 百貨店	量販店	専門店
全 体	52.7	48.2	37.5	34.8	30.4
	48.5	41.9	32.4	23.5	28.7
宮崎市	57.1	55.1	40.8	36.7	30.6
	44.2	30.8	46.2	30.8	23.1
都城市	35.7	28.6	21.4	42.9	35.7
	63.6	59.1	27.3	18.2	36.4
延岡市	50.0	50.0	50.0	25.0	37.5
	50.0	50.0	30.0	20.0	35.0

回答者数 112 人

※上段:2015年 下段:2014年

### ③買物予定地（複数回答）

「宮崎地区（注1）」「都城地区（注2）」「延岡地区（注3）」は、いずれも地元を買物予定地とする割合が最も高い。

「日南地区（注4）」は地元、宮崎市、県外に分散し、「小林地区（注5）」は宮崎市を買物予定地とする割合が最も高い。前年比では、「日南地区」の県外（+66.7P）地元（+50.0P）の上昇が目立った。

「県外」は「延岡地区」「日南地区」を除いて前年比低下した（表3）。

表3. 買物予定地（複数回答、居住地別）

(単位：%)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区(注1)	96.2	1.9	1.9	1.9	1.9	11.5
	92.7	-	-	-	-	12.7
都城地区(注2)	18.8	81.3	-	-	-	12.5
	45.5	90.9	-	-	-	31.8
延岡地区(注3)	36.8	-	52.6	-	-	42.1
	32.1	-	64.3	-	-	25.0
日南地区(注4)	66.7	33.3	-	66.7	-	66.7
	83.3	-	-	16.7	-	-
小林地区(注5)	85.7	57.1	-	-	42.9	-
	66.7	33.3	-	-	66.7	16.7

回答者数 97 人

※上段:2015年 下段:2014年

- (注1) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
- (注2) 都城市、北諸県郡
- (注3) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
- (注4) 日南市、串間市
- (注5) 小林市、えびの市、西諸県郡

### ④県外での買物予定地（複数回答）

#### 「大分市」が前年比大幅上昇

県外での買物予定地は、「福岡市（55.6%）」の割合が最も高く、以下「大分市（44.4%）」「熊本市（27.8%）」「鹿児島市（22.2%）」と続いた。「大分市」は前年比21.7P上昇し、東九州自動車道によりアクセスが改善されたこと等が理由のひとつとみられる（表4）。

表4. 県外での買物予定地（複数回答）（単位：%）

年	福岡市	大分市	熊本市	鹿児島市
2015年	55.6	44.4	27.8	22.2
2014年	59.1	22.7	22.7	50.0

回答者数 18 人

## 4. 最近の県外での買物動向

### (1) 買物頻度

最近1年間で県外主要4市へ買物に行った頻度は、全ての市で「1回」の回答が最多であった。「福岡市」「大分市」の「1回」は前年比低下した一方、「2～4回」が上昇し、買い物頻度の増加がみられる（表5）。

表5. 県外での買物頻度（複数回答）（単位：%）

頻度	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市
1回	47.4	55.8	50.0	49.4
	51.7	49.0	47.9	51.9
2～4回	37.7	32.6	35.6	34.6
	36.3	41.6	37.3	29.8
5～9回	8.8	3.6	6.1	9.3
	6.4	4.7	8.9	9.9
10回以上	6.1	8.0	8.3	6.8
	5.6	4.7	5.9	8.4

回答者数 228 人

※上段:2015年 下段:2014年

### (2) 交通手段

県外主要4市への交通手段では、全ての市で「乗用車」が最も多く、福岡市を除く3市で「乗用車」が約9割を占めた（次頁表6）。

表6. 県外主要4市への交通手段 (単位: %)

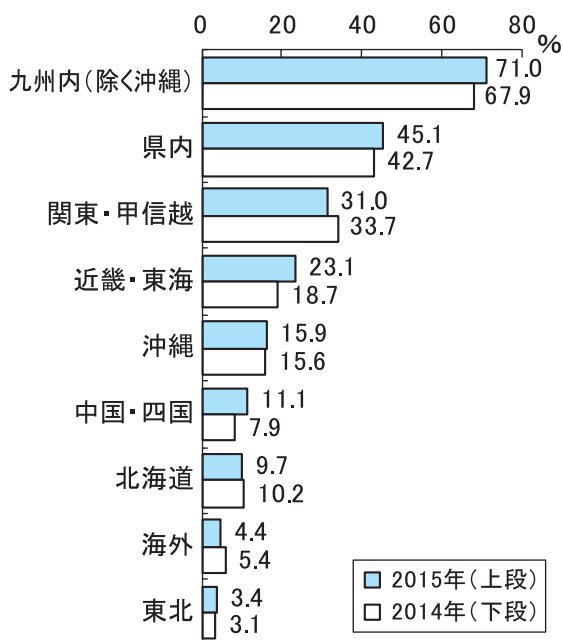
交通手段	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市
乗用車	49.3	92.8	88.3	97.5
	50.0	93.3	88.8	89.3
高速バス	31.3	7.2	3.9	1.2
	32.1	5.4	3.0	3.8
JR	7.0	-	7.8	1.2
	4.7	-	7.1	4.6
飛行機	12.3	-	-	-
	12.0	-	-	-

回答者数 228人 ※上段: 2015年 下段: 2014年

### 5. 今後の旅行・レジャー先(複数回答) 「九州内」が最多

今後の旅行・レジャー先は、「九州内(71.0%)」が最多で、以下「県内(45.1%)」「関東・甲信越(31.0%)」と続いた。「九州内」「県内」は前年よりそれぞれ上昇した一方、「関東・甲信越」は2.7P低下した(図9)。

図9. 旅行・レジャーの予定先(複数回答)



### 6. 現在の生活状況

#### 全体では「変わらない」が約6割

現在の生活状況は、「変わらない」が全体の約6割を占めた(表7)。「悪くな

った」割合は前年比0.7P低下し、生活状況DI(注)は「▲13.3」と、前年比2.4P改善した(図10)。

生活状況別では、全ての項目でDIのマイナス幅が縮小し、特に「レジャー・余暇等」で改善がみられるものの、依然マイナスの状況にある。

前年並みのボーナス支給額が予想される中、家計の補充を目的とした貯蓄の回答が多い一方、衣料品以外の購入予定品や、量販店での買物を選ぶ回答が増加するなど、総じて使いみちに工夫する様子がみられる。(勝池)

(注) DI = 「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合

表7. 現在の生活状況 (単位: %)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全体	12.9	61.0	26.2	▲13.3
	11.2	61.9	26.9	▲15.7
衣生活	9.9	69.2	20.9	▲11.0
	8.3	67.3	24.4	▲16.1
食生活	12.3	68.6	19.1	▲6.8
	10.6	68.1	21.3	▲10.7
住生活	8.9	73.8	17.3	▲8.4
	8.5	73.8	17.7	▲9.2
レジャー・余暇等	12.7	58.6	28.8	▲16.1
	9.8	57.9	32.3	▲22.5

※上段: 2015年 下段: 2014年

図10. 生活状況DIの推移

